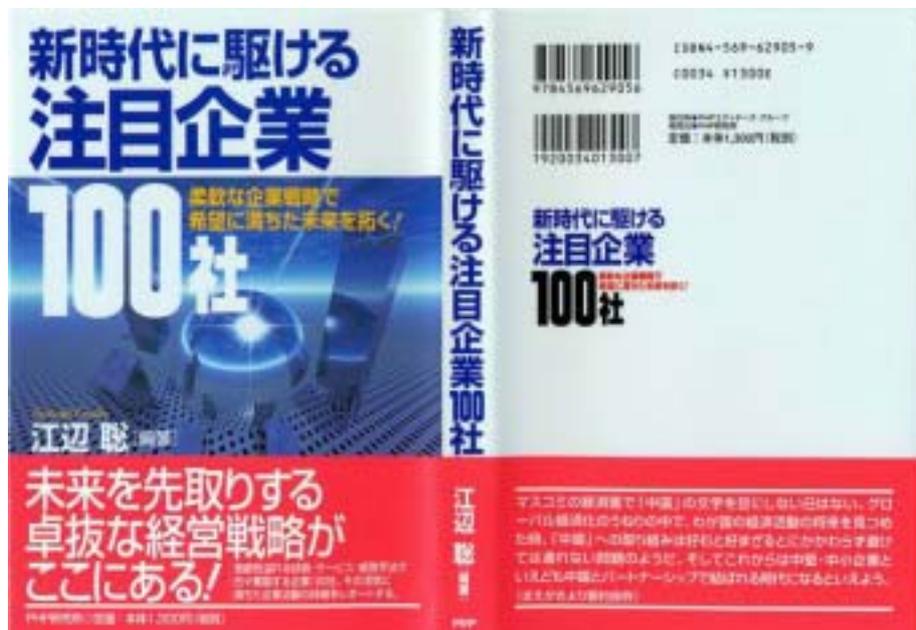


2003年5月10日

「新時代に駆ける 注目企業 100社」
に掲載されました

「新時代に駆ける 注目企業 100社」に掲載されました。

PHP 出版 江辺 聡 著



エーエルティー株

「測れないものを測る」レーザー स्क्यानに特化

世界貿易機関（WTO）加盟を果たすなど、中国の台頭はめざましい。近年その中国に、製造業を中心とした日本企業が次々と進出を果たしている。

このようなわが国のこれまでの経済基盤を支えてきた「モノづくり」の流出は、すなわち産業の空洞化を意味している。

今後、日本が世界に伍していくためには、海外委託生産では換えのきかない独自の技術が求められることは言うまでもない。

その確かな技術が平成四年、ライン電子として設立され、平成十四年二月一日に社名変更したエーエルティー株式会社に息づいている。ライン電子設立当初から現在に至るまで、光学・電気分野を得意とする高野裕氏（現・社長）と、機械分野に精通する



社長 高野 裕

住廣正和氏（現・取締役）が二人三脚で歩んできた。

社名は Applied Laser Technology（応用レーザー技術）を表す。応用レーザー技術の中でも、レーザー स्क्यानに特化した業務を手掛けている。

同社のレーザー स्क्यानは、広域において高速かつ高密度にレーザービームを स्क्यानできるといふ特徴を持つ。

これらの応用レーザー製品を主にメーカーに供給している。日本を代表する大手企業からの引き合いも多い。表舞台にこそ現れないが、日本のモノづくりを除く支える黒子の役割を果たしてきた。

また、OEM（相手先ブランドによる生産）だけでなく、自社製品開発にも注力している。

自社開発の「高速走査位置計測システム」は、毎分五万回転（三キロメートル/秒）するポリゴン スキャナーの面割れ量を連続測定するものだ。肉眼では決して捉えられない一万分の一度の傾きさえも測定する精巧さを誇っている。

「時には、できるか、できないかわからないような依頼が舞い込むこともある」（高野社長）

こうした「無理難題」は、同社に対する厚い信頼の裏返しにはならない。大企業には見られない特質があればこそである。

一般的に、大規模な企業では、ライン（専門分野）ごとに特化した技術者が構成されていることが多い。その点エーエルティーは社員数わずか十名ながらも、光学だけでなく、機械や電気といった幅広い分野に精通した社員が揃っている。

「オールラウンドプレイヤー」は、これまで様々な局面で取引先から重宝がられてきた。例えば自社内で開発から製造までを一貫して手掛ける体制は、納期の短縮、スピードアップにつながった。

また、顧客の要望が急遽変更された際にも、フレキシブルに対応することが可能になる。業務全体を見渡せるからこそ、小回りの効いた対応ができるといえよう。

「海外で安価に生産委託できる技術であれば、アウトソーシングすればよいと思います。それよりも、エーエルティーだからできること、つまり、測れないものを測る。技術を追求していきたい」。測れないモノづくりの裏返しが叫ばれるなか、高野社長の言葉は重みをもつ。

会社データ

代表取締役社長 住廣正和
〒112-8501 東京都港区赤坂一丁目1-10
TEL 03-5561-2711
FAX 03-5561-2712
E-MAIL info@ael.co.jp
http://ael.co.jp
営業時間 午前9時～午後5時
※土日・祝日を除く